

2022.9.8 (木)
第 9 回例会
(通算3678回)

2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で」

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2022-2023 年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度
R1会長 ジェニファー・ジョーンズ
第 2500 地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

月間テーマ	基本的教育と識字率向上月間
本日のプログラム	講師例会「コロナ禍の学生生活～釧路公立大学の現状～」(担当：社会奉仕委員会)
次週例会	情報集会報告会(担当：クラブ研修委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：松井 聖治君
- 会員数 104 名
- ビジター なし
- ゲスト なし

会長の時間

滝越 康雄会長

お食事の方は、どうぞ続けてお召上がりください。

私は個人的にゴルフを年2回ぐらいいかしませんけれども、仲間にも連絡を



して10日に予定して準備をしていました。一昨日、幹事から「会長、北ローターアクトクラブさんのごみ拾いを知っていますか」と連絡が入りました。私としては全然意識していない予定外のスケジュールが入ってしまいまして、花のワンラウンドが一転して一日中ごみ拾いに代わってしまったのです。ロータリーっばくて、ちょっとガッカリしています。

さて、きょうの話題はロータリークラブでは、知る人ぞ知るポール・ハリスです。創始者のひとりとして、1905年に弁護士でスタートしています。ところが、ロータリークラブのどの資料を見ても1905年からスタートしていて、幼少期のことは語られていない。ロータリー以外の資料を見ても、この方はすごく波乱に満ちていて、結構苦勞をされている感じがします。

アメリカのウィスコンシン州で生まれ、3歳で家が没落。それまではとても裕福な生活でしたが、両親の性格から全く儉約を意識せずに王族のような生活をして

いたため家が潰れてしまい、祖父に引き取られて育ちました。学校でも荒っぽくて追い出されたりして、中学校ではいたずら好きでした。バーモント大学に1886年に在学していますけれども、秘密結社関係の事件で退学処分を受けています。

その後、1887年にプリンストン大学に入学。それまでに経てきた職業が新聞販売員、記者、果物畑での労働、俳優、カウボーイ、船乗り、とても波乱に富んだ経歴を持っています。

私が興味のあるところは、秘密結社というところに引かかって、いま深掘り中です。これが分かたら後日のスピーチで報告します。

もうひとつの話です。午前中にメールを見ていましたら、カリフォルニア州の6日の気温が45.6度です。今日はカリフォルニアの樹の話をしたと思います。

『大きな樹』は昔から神秘とされ、神様が宿るとされてきております。神話伝承で、ずっと続いて来ているようです。

2006年に、アメリカ・カリフォルニア州のレッドウッド国立公園で3本のセコイアメズギの樹が見つかり、そのうちの1つがなんと115mの高さです。セコイアメズギが発見されて『ハイペリオン』という名前が付けられたようです。樹齢は600年～800年、人間ならば20歳ぐらいということで、まだまだ大きくなるという樹です。

樹の話をするとうやっぱり不思議です。115mの先までバケツで水を運べるかということ、人間などは到底重くてできないわけです。それを自然現象で上に上げていくのです。植物の力というのは、「根圧・水を吸い上げる力」、「毛細管現象・水の通り道」、「蒸散・葉の気泡から過剰の水分をはき出す凝縮力」、たったこれだけのもので115mの高さになるということです。

この大きな樹ですけれども、森林火災によく耐えています。いままで伐採されてきたので、1970年代で15%、現在では4%しか残っていません。生き残った樹がなぜ耐えてきたかという、タンニンという成分で病原菌・シロアリに耐えてきたということです。自然界の力を想像したらすごいということで、その本のページが記憶にあったものですから、今日ここでスピーチの材料にしました。

以上です。ありがとうございました。

幹事報告 中島 徳政幹事

幹事報告です。会長が申しておりました土曜日のゴルフを中止しにしたのは、北ローターアクトクラブの第4例会が「新釧路川の清掃」ということで、「その清掃にご参加いただけませんか」というご案内が来たので、「会長、出ますか」と言ったら、2つ返事で「出る」と言ったのです。私のせいでゴルフがなくなったわけではございませんので申し添えておきます。

それでは、幹事報告をさせていただきます。1点目は、今月のロータリーレートは139円となっております。

次は、「青森の大雨災害支援金を集めます」ということです。2830地区の田中ガバナーより「青森県内に8月3日に大雨があり、地区内の河川氾濫により冠水・土砂崩れなどの大きな被害がありましたのでご協力ください」ということで、久木ガバナーを通じて案内が来ましたので、後ほど例会中に皆さんに回したいと思います。講師に失礼がないように静かなものでよろしくお願いいたします。

それから、ロータリーの第7分区分ロータリアン・マスターズ・ゴルフ大会ですが、例年今頃の開催となっておりますが、本年度は釧路西ロータリークラブがホストクラブで、「開催日を2023年度5月21日（日曜日）にする」というお知らせが参っております。近づきましたらご案内があるそうで、ゴルフなゆたの会の皆さま、ご参加予定だった皆さまにお知らせします。

最後、少し大事な話・難しい話になるのですが、台北中央ロータリークラブの件です。先日、「創立37周年の授賞式を12月13日（水曜日）に行います」とメールでご連絡をいただきました。それを受けて先週の第3回理事会において、訪台が可能なのか議題を上げて、その結果は「現状のコロナによる隔離期間もあり、今年度の訪問は遠慮をさせていただいた方が良

いのではないか」という意見で固まりました。ですから、本年の授賞式には祝意だけをお届けする形で考えております。会員の皆さまにご報告申し上げますのでご理解のほどをお願いしたいと思います。

■本日のプログラム■

講師例会「コロナ禍の学生生活～釧路公立大学の現状～」

社会奉仕委員会 岩田 信一委員会

こんにちは。本日担当をさせていただきます委員長の岩田と申します。よろしくお願いいたします。

今年度のクラブスローガン「創り出そう身近な奉仕を

友情、愛情 そして熱意で」、会長方針であります「超私の奉仕」を胸に、われわれ社会奉仕委員会は『コロナ禍の学生生活～釧路公立大学の現状～』をテーマに講演をしていただき、私たちが何かできることはないか必要性・重要性を模索したいと思います。

それでは、公立大学事務局次長・小野寺美香様、よろしくお願いいたします。

釧路公立大学事務局次長・学生課長

小野寺 美香様



皆さま、こんにちは。改めまして、私は釧路公立大学の小野寺と申します。本日は普段お伝えすることができない学生の現状をお話できる貴重な機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

簡単に私の自己紹介をさせていただきます。現在、私は釧路公立大学で学生課長として勤務をしております。ご存じの方も多いと思いますが、釧路公立大学の職員は全員が釧路市役所からの派遣で構成されております。

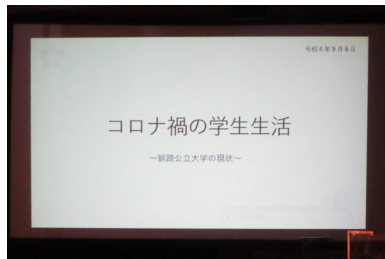
私が、最初に釧路公立大学に派遣されたのは2002年で、5年間在籍しておりました。その後一度市役所に異動し、4年間勤務をした後に2011年にまた大学に戻り、それから現在12年目、通算するともう17年目の大学勤務となります。在籍している学生課は入試・広報・教務・学生に関する業務、そして就職支援をする部署で、課長職になるまでの私のメインの業務は学生の就職支援でした。

本日は、これまで多くの学生と接してきた経験を元に、本学の学生の生活をお伝えできたらと思っておりますので、『コロナ禍の学生生活～釧路公立大学の現状～』をテーマに約30分のお付き合いをお願いいたします。

皆さまのお手元には、本日のレジメと本学の大学案

内をお配りさせていただいております。大学案内につきましては、後ほどお時間のある時に目を通していただけたらと思いますので、レジメに沿って話を進めてまいります。

はじめに、本学の入学者の現状についてです。釧路公立大学の特徴のひとつとして挙げられることは、全国から学生が集まって来るところです。1学年の定員は300名ですが、毎年330名ほどが入学し、その4割近くが道外の出身となっております。これは道内の大学では珍しいと言われております。例えば、小樽商科大学などは、ほとんどが道内出身者で、道外は



4%ぐらいしかいないそうです。本学の4割の道外出身者の中でも東北が2割を占めています。盛岡に入試会場を設けている

こと、また夏休み期間を利用して教職員が東北の高校を回り、先生たちに本学のことを理解してもらうことで受験の際に本学を勧めていただけていることが理由のひとつだと思っています。また本学を卒業した学生が出身地に戻り、就職をして活躍してくれていることで継続して送り込んでくれているものと考えています。

現在、全学年で1,350名ほどが在籍し、そのうち女子の割合は、ほぼ4人に1人となっております。本学に釧路管内から入学してくる学生は、1割強しかいないので必然的に1人暮らしの比率が高くなっています。全国の公立大学の自宅外通学者が56.3%のところ、本学は約9割の学生が下宿やアパートで1人暮らしをしています。家賃は1日2食付きの下宿で平均が60,000円台、アパートは30,000円台～50,000円台となっております。下宿でも土日には食事が出ない所がほとんどですので、食費もそれなりにかかることとなります。その他、光熱水費や教科書などの授業にかかる費用も必要となっております。

また、コロナ禍以降は遠隔授業が増えましたので、いまの2年生が入学する時から、全員にパソコンを購入してもらいました。自宅で授業を受けるためのWi-Fi等のインターネット環境を整備することも求められています。最近はWi-Fi完備のアパートが人気となっておりますが、ない場合は自分で用意するしかないのが現状です。

大学からは、日々、様々な情報をメールで発信しますので、その情報をリアルタイムで受けるためのスマートフォンもいまや必須となっております。前期までは遠隔授業もまだまだ実施されていましたが、この後期からはウィズ・コロナで授業も平常化して行こうとなり、基本的には対面授業の実施となっていくことと思いま

す。ただ、やはり自宅学習を行う上では、パソコンは欠かせないものとなっております。

一人暮らしの学生が、このコロナ禍で大変だったことの1つに、発熱や風邪症状が出た時があります。症状がある人は、病院に連絡をしても「院内には入らず、待機するように」と言われますが、ほとんどの学生は車を持っていません。車がないと病院にかかれない状況でした。発熱相談センターに連絡をしても、病院がどこにあるかを教えてくれるだけで、保健所も同じ状況で、頼れるのは私たち大学になりました。

とはいえ、私どもも職員を感染の危機にさらすこととなりますので、大学が職員の車に学生を乗せて病院へ連れて行くことはできませんでした。本学では抗原検査キットを常備し、希望する学生には検査をして陽性となった時には保健所に届け出をしています。陽性となった学生には毎日、健康確認をし、熱が高い場合には解熱剤を届け、一人暮らしの学生には3,000円程度のカップメンやポカリスエットが入った食料を届けています。それでも7日～10日ほどの自宅療養では食料はもちろん足りませんので、学生たちは友人に助けをもらいながら回復を待ったという状況にありました。

次に、奨学金についてです。日本学生支援機構奨学金の受給状況ですが、全国の大学生の受給率が49.6%のところ、本学では55.9%の学生が奨学金を受給しており、他大学よりも高い割合となっております。さらにこのうち9割の学生が卒業後に返済義務のある奨学金の貸与を受けています。返済義務のない給付奨学金は、現在の大学3年生から始まった制度で今年度は224名が対象となっております。ただこのうち137名につきましては、給付奨学金の他に返済義務のある奨学金の貸与も併せて受けております。給付奨学金の額は家計基準によって違いますが、国公立の自宅外通学者で66,700円～22,300円までの3区分で支給されます。これは学力基準も要件に入っていますので、成績が悪い学生は停止になる可能性もあります。返済義務の生じる貸与奨学金を受給している学生は671名です。今年3月に卒業した学生の奨学金返済額は最高額で725万円にもなっておりました。この学生はこれから毎月30,000円を20年かけて支払っていくこととなります。平均金額でも300万円近くを借りておりこの場合の返済は14,000円を15年間返し続けることとなっております。

ちなみに本学には現在大学独自の奨学金制度がありません。来年4月には本学も法人化いたしますので、独自奨学金についてもこれから考えていかなければならないと感じております。

次に、授業料になります。本学の授業料は年間53万5,800円で、これを前期と後期に分けて支払う形となっております。授業料減免につきましては、国の就

学支援制度による減免が基本で、収入に応じて全額免除から1/3減免までの区分があります。本学独自の授業料減免については、国の新制度が始まる以前に入学していた現4年生のみが対象となり、これは半額減免になるものです。その他、東日本大震災の被災学生に対する減免制度がありますが、今年度対象になっている学生は7名でした。

奨学金、授業料の減免のどちらにも家計収入と本人の成績要件がありますので、誰もが対象になるわけではありません。

次に、学生のアルバイト状況をお話させていただきます。今年の4月に2年生～4年生の学生にアンケートを取りました。その結果によると半数以上が現在もアルバイトをしており、約8割の学生が何かしらのアルバイトを経験しております。アルバイトを始めた理由として一番多かったことは、「社会勉強のため」となっております。アルバイト先でのお客様対応や上司・先輩などから実践的に学ぶことで、就職活動の際はもちろん、卒業後の社会人生活を送る際にも大いに役立つものと考えます。また貯蓄のためが45%。就職活動のためという学生が30%ほどおりますが、これは釧路を離れて札幌や東京などの都市圏で就職活動をするための資金を用意しておかなければならないという学生が多いからと言えます。これも地方大学出身の学生の不利な点だとよく言われることです。

その他、生活費のためや授業料・学費のためなど生活に直結した費用を捻出しなければならない学生も一定数いるのが現実です。また交際費のためということも結構多くなっています。ただし「交際費＝遊ぶお金」ではないと考えています。

大学は勉強をする所ではありますが、そればかりではありません。一生付き合っていける友人に出会える場所でもあります。大学に入って一番重要なことは、友人作りと言っても過言ではないと私は思っています。高校までとは違い、ずっと同じ仲間と授業を受けるわけではないので、どこで友だちを作れるかと考えたら、一番は部活・サークル活動になります。例えば運動系のサークルであれば、ユニフォームや道具を用意し、他大学との試合をするための遠征費もかかります。「よさこいサークル」なども一生懸命活動をしています。同じように衣装や遠征費などかなりの費用がかかっています。また、授業で隣の席になったり、同じアパートであったり、そうした友人たちとは一緒にご飯を食べに行ったり、出かけたりしながら友人関係を密にしていく。それが大学生の普通の生活だと思います。大学生にとって交際費とは必要なものだと考えています。

話はアルバイトから脱線しますが、コロナ禍で学生が一番大変だったもうひとつが友人作りでした。いまの3年生は入学式もオリエンテーションもなく、

サークル活動も休止。授業も始まったと思ったら遠隔授業でしたから本当に孤独だったと思います。辛うじて基礎演習という1クラス15名程度の必修授業を対面にして、その中で自己紹介をしてつながりを作らせたという状況でした。親元を離れて一人暮らしを始めただけの学生には辛い日々だったと思います。

次に、アルバイトの時間数です。週に10時間～20時間が一番多く、20時間以上働く学生も2割以上になっています。入学したばかりの1年生には「大学の授業に慣れるまではアルバイトを勧めないよ」と話しますが、「親から『生活費は自分で何とかしろ』と言われているので、すぐ探さなければいけない」と言われることが少なくありません。

ただ、やはり授業以外の時間でアルバイトをしなければいけないので、夜が中心となり、睡眠不足で起きられず、授業に出られなくなり単位を落とす学生も少なからずおります。成績が悪くなることで奨学金が止められることもあります。最終的に、留年などになったら本末転倒と思いますが、ことお金に関しては何ともしようができません、強く言うこともできずにおります。

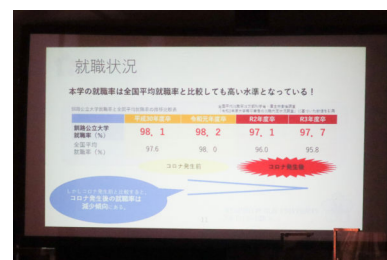
実際、「仕送りが全くない」という学生が2割もおります。このような学生は奨学金を借りて、アルバイトと併せて何とか捻出しているのだと思います。

学生がアルバイトを探す時には、大学のエントランスホールに掲示されている『大学に直接来た求人』を見ることが多いです。その他は、そのお店に張ってある求人案内を見たり、先輩の紹介だったりとなっているようです。大学に掲示できる求人は、学業に支障をきたさないもののみとなっていますが、コロナが広まってからはかなり減りました。最近では、また求人をいただけるようになってきていますが、コロナ以前の状況には戻っておりません。アルバイトは、長期で働けるものの他、短期のアルバイトの募集もあり、学生たちにとってありがたいものとなっています。

次に、本学の就職状況について触れさせていただきます。私が学生の就職支援をメインにしているもので、少しここからは力が入ってしまうかもしれませんがお許しください。

今年の春に卒業をした学生の就職率は97.7%となっています。全国平均が95.8%ですから、かなり善戦していることが伺えます。ただ、コロナ発生以前までは戻っていない状況にあります。

いまお伝えしました就職率ですが、就職希望者に対する決定者の割合となっており、卒業生数に対する割合ではありません。大学院や専門学校への進学者、卒業



後に留学をする人、公務員浪人を選択した人、大学に就職希望の意志表示をしていない人、などが分母から外れております。この春の卒業生に対する就職者の割合は82.4%でした。

ここで、釧路管内の状況にも少し触れます。今年の春の卒業生306名のうち釧路管内に就職をした者は28名。約1割の学生となります。このうち民間就職者は18名で、公務員が10名です。就職をした地域は「実際にそこに住んで働く場所」となっていますので、この中には「本社は釧路管内ではないけれども勤務地が釧路」という人も入っています。本社が管内にある企業への就職者は16名。公務員は釧路市役所に入庁した8名と北部消防事務組合の1名のみでした。

先ほど、釧路管内から本学に入学する学生の割合を1割強とお話ししました。そして、釧路管内に就職をした卒業生の割合もほぼ1割です。結局、釧路の子が釧路に就職しているのかと思われるかもしれませんが、



この春に釧路管内に就職をした卒業生28名のうち11名は管外から釧路公立大学に入学してきた学生でした。ここ数年の結果を見ても半数ほどが釧路管外出身者となっています。

ここで、いまの大学生の就職活動の現状にも少し触れたいと思います。現在、民間企業の正式内定は、多くの企業が内定式を実施する4年生の10月1日からとなっています。就職活動時期は、企業の採用に係る広報活動が始まるのが3年生の3月1日から。実質的な選考開始は4年生の6月1日となっております。ただ、多くの企業はこれに関係なく選考を進めているのが実情です。3年生のうちに内々定を出している企業もありますし、2月・3月から選考を始め内々定を出す企業も多く、学生たちに内々定が出るピークはゴールデンウィーク前後となっています。

ですが、これももう遅いと考えられています。ここ最近では、3年生の夏のインターンシップで企業と接点を持ち、3年生のうちに内々定を得ている学生も少なくはないようです。本学の3年生でも、夏のインターンシップ後に内々定をもらった学生が実際に出て来ています。

もうひとつ、コロナ禍の就活がどのようなものだったかをお話ししたいと思います。企業の採用選考も人と接触するものはストップせざるを得なかったため、会社説明会も面接のできない状態となり、多くの企業がオンライン化に舵を切りました。選考のオンライン化が進んだことで、釧路にいながらにして東京や札幌をはじめとした多くの企業の選考を受けられるようになったことは本学だけではなく、地方大学の学生に

としては良かった点だと言えます。

本学では、毎年多くの学生が釧路を離れて地元へ戻ったり、札幌や東京で短期間アパートを借りたりシェアハウスを利用しながら就職活動をしていました。その費用は大半の学生がアルバイトで貯めたお金を当てていましたので、そこを節約できたことは大きいと思います。

何人かの4年生に聞いたところ、コロナ禍の就活のプラスの面として「会社説明会や面接・面談がオンラインの所が多かったため、交通費などの就活費用がかからず良かった」という金銭面での意見が多かったです。また、「WEBで参加できることによって様々な企業の説明会に参加することもでき、時間を有意義に使えた」という声もありました。マイナス面としては、「オンラインの説明会などで実際の会社の雰囲気が知れない。直接会って話ができないため相手の表情が読めなかった」。逆に「人事の方に顔を覚えてもらえているのか不安だった」という声が上がりました。また、「他の就活生に会うことができず、情報交換ができなかった」ということも不安な気持ちにさせていたようです。現在、4年生の内定報告も続々と上がって来ております。釧路を離れて就職活動をする学生が多いので、報告も後期に釧路に戻ってからという学生が多いのですが、例年、後から聞くと半数以上が5月・6月には内定を得ていたことが分かります。

最後になりますが、釧路公立大学はこの釧路の地に存在していることが意義あることだと私は思っています。毎年1,300名の学生が生活をし、その9割がアパートを借りて暮らしているだけでも大きな経済効果があり、飲食店・スーパー・コンビニ、その他多くのアルバイト先で学生の力が必要とされています。何より若い人がいることで街に活気が生まれていると思います。

大学のゼミ活動では、若い先生を中心に地域の方とコラボをして活動をする中で研究を進めています。あるゼミでは2月に、ふたみ青果さんとコラボ開発をした『無添加スムージー』の販売を釧路和商市場で行いました。またあるゼミでは、街を歩きながら地域が置かれた状況を知り、地域活性化に結びつけるための課題を検討するフットパスの活動を継続して実施しています。その他にもサークル活動の中で、地域の方々と一緒に釧路を盛り上げようと頑張っている学生たちが多くおります。

この釧路に優秀な人材を輩出することはとても重要なことです。釧路市役所をはじめとして管内の多くの企業に卒業生を採用いただき、1期生は50歳を超え、それぞれの場所で中心となって働いていると聞いております。その中には釧路出身ではない方も多く、大学がなければ釧路に縁がなかった方々かもしれません。

本学は、昭和63年4月に経済学部の単科大学とし

て開学し、今年度で34年目になりました。来年4月には、『公立大学法人釧路公立大学』として新たな一歩を踏み出します。

釧路公立大学の学生がこの地で良い人間関係を作ることができ、この地に残りたいと思ってくれるように今後も各方面と連携して考えていきたいと思っておりますので、皆さまにも応援をしていただけると幸いです。私からは、以上とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■大道 光肇君 2ヶ月振り、無事退院出来ました。感謝・感謝です。

今年度累計 78,000 円